


活動プログラム	No.21 ネイチャークラフト		
期待される効果			
プログラム概要	自然の中で採取できる木の実や枝などを集めて、様々なクラフトを行います。作品作りを通して、各々の個性を活かし創造性を膨らませながら、作品作りを楽しむことができます。		
対象	どなたでも可	人数	何人でも可 (創作工芸室96名まで)
時期	通年	場所	創作工芸室、屋根付き広場など
金額	教材申込書参照	大人の人数	最低1人以上 ※ 扱う用具(刃物など)によっては、10人に1人ぐらい必要です

準備物	団体ごと	クラフトに必要なもの(木の実や枝を使用する場合) 消耗品(ペン・ボンド・グルーガンの芯など)、救急バッグ
	服装 個人装備	軍手、作品を持ち帰る袋
美方高原で レンタル可能な物		<ul style="list-style-type: none"> ・はさみ ・のこぎり ・カッターナイフ ・カッティングマット ・ピンセット ・グルーガン本体(芯の販売はありませんので、ご持参ください) ・切り出しナイフ ・くじり(千枚通し) ・きり(三つ目、四つ目) ・彫刻刀 ・木工用鉄ヤスリ ・かなづち ・30cm定規 ・ドライバー

活動のタイムスケジュール(例)

時間	運営	安全上のポイント
9:00	工芸室などに集合 使う道具の説明、配布	道具使用に伴う注意喚起の実施
9:15 ～	活動開始	使う道具によっては危険を伴う物もあるため、引率者は使用中危険がないが見廻る
11:30	道具返却、活動場所の清掃 ふりかえりなど	刃物や尖ったものの返却時は返却手順など伝え、危険な状況が生まれないように全体をコントロールする

補足ポイント

- 「木のキーホルダー」「木の名札」「つるつるストラップ」など既存のクラフトもあり、これらには所定の材料費がかかります。
- 思い出の品作りとしての側面もあり、持ち帰った作品を改めて眺めることで、その時の気持ちを思い出すことができます。
- 発展例として施設周辺の散策をしながら、材料集めを行うこともできます。

活動 プログラム	No.21	ネイチャークラフト
-------------	-------	-----------

予期されるリスク	リスクに対する対応
材料集めの場所の確認	材料集めをする場合は、その場所の確認をする。周辺に危険な箇所はないか、倒木や落石の恐れがある場所があれば、事前に処理もしくは場所の変更をする。
天候不良	屋外に出る場合は、当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
その他のケガ、体調不良	救急バッグを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
活動場所は安全に歩き回れる状態であるか。
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）
<p>使う道具をグループごとに管理させ、扱い方には注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刃物を使う際には、刃物の扱い方を十分説明し、持ち方や安全な使い方を確認すること。 ・ グルーガンを使う際には、高熱を帯びるため、火傷には十分注意すること。 <p>屋外に出る場合、周辺を確認しながら進み、十分に気をつけて材料集めをし、走らないこと。</p>